

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「想わせられる事」

聖書宣教会教師

松本 任弘



近年、学習用、研究用の情報機器の発達が目覚ましい。こうした機器を適切に使えば、今では昔と比べ大量の情報を迅速に、しかも安価に入手でき、短期間のうちに多くを学ぶ事も出来る。コンピュータとその関連機器は、必要な情報を手際よく迅速に得るのには大変有用である。多事輻輳し目まぐるしく変わる現代の時勢に適応するには是非こうした器具と手段を使う必要があるだろう。

聖書の学びでも、情報機器を有効に活用できれば、その効果は大きい。これまで分厚いコンコルダンスを何回となく引つ繰り返してもなかなか得られなかった情報も、事によっては比較的簡単に手に入れる事が出来る。忙しい今の時代、大いに役立つ。神学校でもコンピュータと聖書ソフトそれにインターネットはほぼ必需品になった。

また最近とみに進められている書籍の電子化も大きな助けになる。電子書籍の方が安価だし、広い場所を塞ぐ大量の紙製書籍も必要でない。一昔、二昔あるいはずっと以前に出た貴重な高価な文献も今はインターネットを通じて無料で自分の情報機器に取り込む事が出来るようになりつつある。

電子機器による情報は、差し当たり書籍による情報の延長と考える事が出来よう。情報を満載した電子機器を持つ事は大きな図書館を持つ事に匹敵する。必要とあれば容易に情報を手に出来る。しかし大切なのはそれをどう使うかである。ただでさえ情報過多の時代、そうした機器はそれを増幅しかねない。欲望のままに使うと混乱を来す。情報の選択が不可欠である。正しい情報の選択には明確な目標設定が無ければならない。

これまでは紙の書籍や文書を読んで得ていた情報を、電子機器ではスクリーンに映し出される文字を読んで得る。ここまでだと紙と電子機器の違いはあまり無い。いずれの場合も人が自分の目でそれを読み、自分の頭で理解する。本の場合と同様、時間をかけて目で読み、頭で纏め考えねばならない。電子機器自体は人の読書力を増進させない。

しかし情報を整理し纏めてノートに記録するとなると電子機器の方が能率が良く、より便利である。その上、検索機能が使える場合は情報の整理が速やかに行える。やはり紙の書籍よりは電子書籍の方が便利なようだ。

文字による情報はせいぜい人の姿の半面しか表さない。人の表情、人の目、その時その人の口から出てくる言葉の方がその人の姿をより多くより正確に物語る事が多い。思想家の書いた本とその思想家の行動にしばしばギャップを認めざるを得ない所以である。人とのコミュニケーションは面談を基本とすべきである。機器に頼りすぎてはならない。

情報化社会では常に能率性が追求される。無駄は許されない。能率性のみを求める世界は人を狂わせ窒息させる。人間性の回復のため、聖書は別として、ある時は全ての本から解放され本のない生活をする必要があるように、情報機器からしばらく解放される生活をする必要がある。

聖書を読むのには本でなければならぬとは決して言えない。パソコンでも iPad でもその他の電子機器でもよいだろう。しかし、現在の電子機器は聖書を読んできた個人の歴史を記録に留める事がほとんどない。それに比べ在来の本としての聖書には、傍線が引かれ、マークがしてあり、書き込みがあり、種々の染みが付き、汚れが見られる。こうした場合は決して稀ではない。それらは一つ一つその個人のこれまでの歩みの貴重な足跡であり、他人には意味を成さなくとも、その個人にはしばしば多くを物語る。本に印刷された聖書本文は、知と心の結び付くこうした場面を提示する可能性が遥かに大きい。

信仰者の手垢で汚れた、汗や涙の染みの付いた聖書の存在を忘れて欲しくない。

日本のみならず、世界各地にて聖書宣教会の働きを覚えて祈り支えてくださる卒業生、諸教会、祈援者の皆様へ。今年は厳しい寒さが続きましたが、いかがお過ごしでしょうか。学舎から最新のニュースをお届けいたします。

校長として奉仕するようになって二年が経過しようとしています。牧会をしていた頃は、時間は一週間ごとに刻まれると考えておりましたが、聖書宣教会ではもっと大きなスパンで時を刻まれ、時間の経過がグンとスピードアップしたように感じます。昨年4月に入会した13名の研修生たちも、御家庭の予期せぬ事情でやむなく退会したおひとりを除いて、一年目の歩みを間もなく終えようとしています。次第に宣教会の学びと生活のリズムにも慣れ、ひとりひとりが精一杯課題に取り組んでいます。当然様々な問題に直面しながらですが、この一年間、主の御守りを感謝する次第です。一年生にはまだ二年間ないし三年間の猶予がありますが、卒業・修了を控えた六名の兄弟姉妹にとっては、もはや一時の猶予もありません。いつものように年度末の風景が展開しています。すべては年明け後の、卒論・卒研の初稿提出から始まります。それは1月5日でした。そして、25日が最終稿の提出。そして、その直後から卒業チャペルが始まります。同時に2月上旬の卒論の試問に備え、無事パスをすると（修正は勿論のことですが）、それぞれ単身寮や家族寮の送別会が計画されてゆきます。卒業生はその間、招聘や進路の問題に対応したり、卒業後の奉仕先との打ち合わせ等が続きます。それらを通常の授業の課題をこなしながら続けていかなければならないのです。こうして迎えた2月22日、運命の（導きの？）卒業判定会議です。この原稿の入稿時点では、まだ最終人数は確定できませんが、全員が承認されると今年には6名が新たに奉仕へと旅立ちます。奉

仕先やあかしなど詳細は次号になりますが、第52回目卒業式は3月14日です。今年の卒業生の中にキリスト集会からの献身者が二人もおり、卒業説教も下小鳥キリスト集会の三輪敬太長老に依頼をしました。皆さんのご臨席をいただければ、卒業生たちにとって大きな励ましとなることでしょう。お会いできることを楽しみにしています。

さて、それにもまして気になるのは来年度の入会者のことではないでしょうか。今年は昨年とは違い、願書の提出が遅れ気味でしたが、最終的に8名の方が願書を提出し、2月14日に入会テストがあり、7名が入会を許可されました。それぞれ落ち着いた新入生であるように見受けられ、来年度からの学びが楽しみです。今年初めて聖書科教会音楽専攻に1名を迎えたことも付記すべきことでしょう。

この時期の聖書宣教会の学校行事は、「教会音楽のひととき」です。これは有志による聖歌隊の編成ですが、今年は参加者も多く、当日が楽しみになっています。今年は2月の19日にもたれます。また教師会では、早くも8月の夏期研修講座の準備を開始しました。今年は宣教会でも「霊性」の問題を取り上げることにいたしました。あくまで聖書宣教会らしく、この問題についてもみことばに聞く姿勢を貫きたいと思っています。是非夏の参加をご検討ください。

最後に、祈りの課題をお伝えいたします。聖書宣教会では、現在カリキュラムの切り替えが進行しています。新カリキュラムは、現2年生が入会したときから始まりましたが、来年は3年目となり、教会論等カリキュラムの移行が一層すすみます。この切り替えが順調に行われるためには、新しい働き人が必要です。どうかそのために祈りください。次世代を担う教師たちが起こされてゆくことが聖書宣教会には必要です。皆様のお祈りに感謝しつつ。

「宣教の現場から」

日本福音キリスト教会連合・栄聖書教会牧師 末松隆太郎 (20期卒業)

牧会者は聞く事、応答する事が人格に関わる時に必須であることを学びます。聖書を通して神に聞く事、そして神に応答する事は信仰の土台です。牧会の現場では、「神のことば」が取り次かれ、それに人々がどう反応するかを知る事も求められます。その中で「神のことば」が正しく語られているのか、又（個々の状況に対応して）適切に語られているかを再吟味させられます。私にとって、教会での「小グループ」は牧会の中心であり、その場で聞き、吟味し、応答する事で牧会者として成長させられて来ました。

昨年の10月16日～25日に、第三回ローザンヌ世界宣教会議がケープタウンで開催されました。テーマは「全教会が、全世界に、全人的福音(Whole Gospel)を伝えるために」で、私も198カ国4200人の代表と共に参加する機会を得ました。言語も、背景も、働きも異なる6名が会議中固定され、朝のエペソ書の講解説教の後、語られた事のみ分かち合いをしました。世界大の「小グループ」です。そのグループではルワン

ダ内戦の折の部族抗争のように、「隔ての壁」がどのように作られるのか、「和解」の困難さも率直に語られます。同時に、人間わざでは取り去ることが不可能な敵意が消え、十字架の下で「赦し」と「和解」が起こる奇跡も語られます。現に起こる、福音のダイナミズムを体感できました。このように分かち合う中で、集うもの全体が大きな「家族」である事が知らされます。

「苦しみの神学」はサブテーマの一つでした。脱北して、中国で福音に出会い、宣教師として北朝鮮に密入国し、消息が途絶えた父の証詞が、18歳の女子から語られます。宣教の現場の声を「聞く」事から、自己の福音や宣教理解の甘さが正される経験でした。

今年の6月3日(金)～4日(土)聖書宣教会の「宣教学特別講義」の中で、もう少し丁寧にローザンヌⅢについての報告、21世紀を生きる教会と宣教などを中心に、話させていただく機会を頂戴しました。日本の現場で、世界から「聞く」事、世界に「発信」する事が整理されればと願っています。

図書館だより

図書館長 津村俊夫

よい本を集めることは容易なことではありません。本の評価は、実際に時間をかけて一冊ずつ読むのでなければ十分には出来ないものです。

しかし、時間を余りかけないで、ある程度その本の内容を知るためには、目次をじっくりと観察しながら、論述の方法や、資料の扱いなどを調べることです。しかし、いかに内容が優れていても索引のない本はよい本とは言えません。また、本のカバーにどういう学者がどういう紹介の仕方をしているかで、ある程度その本の価値を推測することが出来ますが、専門雑誌での書評からさらに適切に判断することが出来るでしょう。

しかし、紹介者や評者がその本をどのように取り上げ、評価しているのか、それは人によって大きな違いがあります。最近では、聖書学の分野でも Review of Biblical Literature (RBL) のような、WEBベースの書評専門誌が「出版」されています。そのような雑誌では、同じ本に対して複数の学者による書評が掲載される場合がしばしばですので、複数の書評を比べながら、その本をより良く判断することができます。

それと同時に、評者がその本をよく読んだ上で評価しているのか、著者の意図していることをくみ取って判断しているのか、それとも、本を出しにして自分の考えを述べているだけなのか、注意深く評者を判断することも必要です。

図書館に、よい本を集めることが出来るようにお祈りください。

2011年度 聖書宣教会講座案内

2011年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。11月5日(土)のオープンデイを始め、聖書講座、教会合唱講座はどなたでも参加できます(オープンデイ以外は要申込)。お待ちしております。

聖書講座 (金曜日 10:30~12:10)

前期:「旧約聖書地理」(松本 任弘)
4月8日~10月14日(15回)
於 ぶどうの樹キリスト教会(四ッ谷)
後期:「新約聖書地理」(飯島 勲)
10月~3月(15回)

第37回 夏期研修講座

期間:7月5日(火)~7日(木)
会場:奥多摩福音の家
対象:牧会者とその配偶者
テーマ:「牧会者と靈性」
諸教会の間で「靈性」が話題になっておりますが、聖書宣教会も今夏は「牧会者」として「靈性」と題して研修会を開催したいと考えています。聖書宣教会らしくこの問題のみことばから掘り下げて、「靈性」について一緒に考えることができればと願っています。また、奉仕の現場を離れて同労者と心ゆくまで交わりるときを持っていただきたいと思ひます。
講師:鞭木由行、赤坂泉、内田和彦、岡本昭世、津村俊夫、松本任弘
礼拝:久利英二、岸本紘
詳細:別紙案内、ウェブサイトをご覧ください。

教会合唱講座 (火曜日 19:15~21:00)

前期:「私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。」(飯島千雅子、遠藤かおる)
4月12日~10月11日(9回)
於 立川駅前キリスト教会
後期:10月~3月(9回)

第27回 教会音楽夏期講習会

期間:7月28日(木)~30日(土)
会場:聖書宣教会(宿泊は近隣の「玉川苑」)
対象:聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方
テーマ:「みことばと音楽」-礼拝と賛美-
私たちにとって「賛美」はとても身近なことがらです。それは、私たちの信仰の歌であり、私たちの心の告白です。しかし、この賛美が何であるのか、どのように賛美すべきなのか、何を賛美すべきなのか、どこまで理解しているのでしょうか。今夏は、賛美の理解を深めるための講習会といたしました。実技を含めて、楽しく学べるひとときとなりますように、願っております。
講師:聖書宣教会教師・講師
詳細:別紙案内、ウェブサイトをご覧ください。

(このほか、聴講制度があります。詳細は事務局まで)

2011年度 聖書宣教会 主要年間予定

2011年

4月5日(火)	入会式	10月27日(木)	後期開始
4月8日(金)	前期開始	11月5日(土)	オープンデイ
5月24日(火)	祈りの日	11月17日(木)	祈りの日
6月3日(金)~6月4日(土)	特別講義	11月26日(土)	第29回賛美礼拝
6月27日(月)~7月2日(土)	集中講義	12月18日(日)~1月6日(金)	クリスマス調整期間
7月3日(日)~8月26日(金)	夏期調整期間	2012年	
7月5日(火)~7月7日(木)	夏期研修講座	1月7日(土)	後期再開
7月28日(木)~7月30日(土)	教会音楽夏期講習会	2月11日(土)	信教の自由を守る日
7月中旬~	キャラバン伝道	2月13日(月)	入会試験
9月1日(木)	前期再開	2月18日(土)	教会音楽のひととき
10月14日(金)	前期終了	3月6日(火)	卒論発表会
10月15日(土)~10月26日(水)	秋期調整期間	3月10日(土)	後期終了
10月18日(火)~10月19日(水)	リトリート	3月12日(月)	第53回卒業式

編集後記

コミュニケーションの歪みがかたがた困難が増えていっているように思ひます。話者には真意を正確に伝える細心の注意と努力が、聴き手には理解の適否を吟味し、確認する誠実さが求められるのは言うまでもありません。その基本が軽んじられているように見えます。主の平和に生かされている主の民として、真実で建徳的な関係性を世にあかしたいものです。

お祈りください:

- 卒業・修了予定者、また各地の同窓生が、主の前に誠実を尽くして奉仕できるように。主が祝福してください。(4/18のAccordance活用セミナーも用いられるように。)
- 新入会生の備えのため、研修生の新年度への備えのために。
- 教職員一同が主の目にかたがた奉仕を続けられるように。(A)